

平成 23 年度採択文部科学省博士課程教育リーディングプログラム
広島大学大学院「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」
第 2 回リトリートを実施

広島大学大学院「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」は、平成 25 年 12 月 14 日から 15 日の日程で、本プログラム学生 18 名が参加して、広島県竹原市において第 2 回リトリートを実施しました。今回のリトリートの目的は、「放射線災害復興に対する認識・理解は深まっているか！」というテーマの下に、本プログラムの大学院生が招聘講師およびプログラム担当教員とともに学際的な広い視野でこれまでの学修の成果と今後の課題を確認することです。

岡本哲治プログラム責任者からの挨拶の後、文部科学省研究開発局原子力損害賠償対策室の長谷浩之次長、南相馬市立総合病院の及川友好副院長（本プログラム客員教授）、北海道大学の行松泰弘教授（本プログラム非常勤講師）、および本学理学研究科の井出博教授の 4 名の招聘講師から、福島復興における社会科学的小および医学的課題、さらには損害賠償における法的諸課題についてご講演を頂き、本プログラム学生やプログラム担当教員と活発な討議が行われました。

本プログラム学生の発表では、2 年次生からは研究進捗状況、1 年次生からは福島県南相馬市等へのショートフィールドビジットの報告があり、活発な意見交換が行われました。神谷研二本プログラムコーディネーターは閉会挨拶で、「これまでに修学した知識を下にさらに精進し、グローバルリーダーであるフェニックスリーダーを目指してほしい。」と締めくくりました。なお、本リトリートはすべて英語で行われました。



本プログラム学生によるプレゼン・討論風景



集合写真